

2015 年 9 月 29 日

ISO メルマガ原稿(150929)

ISO9001・ISO14001 の改正状況(37) ISO9001・ISO14001:2015 発行

ISO14001 の 2015 年版が「9 月 15 日」付で発行されました。また、ISO9001 は 9 月 23 日にその改訂内容が発表されましたが、日付は「9 月 15 日」となっています。これは、ISO9001 と ISO14001 が 1 週間ずれると、両規格の認証を取得している組織が移行期限等で混乱を招くことないようにする特別の処置と思われる。

この結果、ISO9001 及び ISO14001 とも、2015 年版への移行期限は「2018 年 9 月 14 日」となりますが、現実には、審査機関の手続き上の問題からその 3 カ月程度前までが実質的な移行期限になると思われる。

移行期限についての注意事項は、ISO メールマガジン:第107回(150223)ISO次期改正動向(31)「ISO9001/14001:2015年版への移行機会が1回のみケース!!」で紹介したとおり、年の後半に審査を受けている組織は、2018年の審査時に移行する機会を失うかもしれませんので注意が必要です(注:通常の審査時以外に別途費用を負担して受審することは可能です)。

なお、ISO14001 の対訳本は既に発行されていますが、ISO9001 の対訳本は 10 月 1 日に発行されることになっています。また、JIS Q 9001:2015 及び JIS Q 14001:2015 は 11 月 20 日の発行予定です。なお、対訳ポケット版は来年 2 月の発行予定です。

所で、IS(国際規格)が FDIS(最終国際規格案)とどこが変わったか気にされている方もおられるかと思いますが、元々 IS は FDIS から、「てにをは」以外は変えないのが原則ですので、その原則通り、基本的な変更はありません。多少気になる違いを探してみると次のとおりです。

6.1.1	環境マネジメントシステムの計画を策定するとき、組織は、次の a)～c)を考慮し、 a) 4.1 に規定する課題 b) 4.2 に規定する要求事項 c) 環境マネジメントシステムの適用範囲 次の事項のために取り組む必要がある、環境側面(6.1.2 参照)、順守義務(6.1.3 参照)並びに 4.1 及び 4.2 で特定した、その他の課題及び要求事項に関連する、リスク及び機会を決定しなければならない。 - 環境マネジメントシステムが、その意図した成果を達成できるという確信を与える。 - 外部の環境状況が組織に影響を与える可能性を含め、望ましくない影響を防止又は低減する。 - 継続的改善を達成する。
A.5.2	これらのコミットメントは、しっかりと、信ぴょう(憑)性及信頼性のある環境マネジメントシステムを確立するため、組織がこの国際規格の特定の要求事項に取り組むために確立するプロセスに反映されることが望ましい。

その他は細かな修正が何カ所かある程度です。

ISO9001 の変更点については、対訳本が発行されてから紹介しましょう。

神奈川 ISO・経営支援センター、神奈川環境経営支援センターでは、ISO9001 及び ISO14001 の **IS 基準の規格解説セミナー**を公開コース及び出張コースで実施しています。ご感心のあおりの方は継までお問い合わせください。

[「info@kanagawa-touroku.org」](mailto:info@kanagawa-touroku.org)

以上

参考:ISO9001 及び ISO14001 の次期改正についてのこれまでのメルマガの記事は次に掲載されています。

•http://kanagawa-touroku.org/p/9000/?page_id=880